

第4学年3組 体育科学習指導案

【日時】令和6年7月23日(火) 10:20～11:05 【場所】多目的室1・2 【指導者】宮司 健太郎

本授業の参観の視点

児童がリング・キャッチで点数を伸ばすために、運動の視点を使ってこれまでに学習した動きと比べ、チームで協力しながら、リングを投げたり捕ったりする動きを高めていく姿をご覧ください。

1 単元名 リング・キャッチ (A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動)

2 単元の構想

(1) 単元について

中学年の体づくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、様々な基本の動きに加えて、さらに多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする。様々な基本的な体の動きの幅をさらに広げていくとともに、動きの質を高め、高学年の体づくり運動の学習につなげることが求められる。

また、運動を楽しく行うために、友達の動きを見たり、話し合ったりしながら自己の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫していく。そのことを友達に伝えるとともに、体づくり運動に進んで取り組み、決まりを守り誰とでも仲良く運動をし、友達の考えを認め、場や用具の安全に気を付けることなどをできるようにすることも大切である。

本単元では、日本レクリエーション協会が考案したチャレンジ・ザ・ゲームの中の1つであるリング・キャッチを行う。リング・キャッチは1チーム5名で、向かい合ったメンバーが3つ以上のリングをまとめて投げ合い、ローテーションしながら、全部でいくつのリングをキャッチできるか数を競うゲームである。その中で、チームで協力して、リングを投げたり捕ったりするといった、巧みに用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。

(2) 児童について

- 本学級の全児童が、体育の授業が「好き」だと答えている。これまでの体育の学習で、「たいいく」の約束(楽しく・一生懸命・一緒に仲良く・工夫して)に沿って運動を面白くすることやルールを守ることに学んでいる。また、運動との出会いの場で面白さを共有し、探究テーマを児童とともに設定している。自分でめあてを決めて書く活動を行っており、自己の課題に応じためあてを運動の視点を使って立てることができる児童も出てきたが、まだ意識して運動の視点を使える児童は少ない。困ったことがあった際には、友達と相談しながら、自分たちで解決している児童が19名いる。友達と一緒に活動することを好む児童が32名と多い。 【学び方の状況】

- ボールを投げる運動や遊びは、全児童が経験したことがある。ドッジボールをして休み時間を過ごす児童も多い。また、ネット型ゲームのキャッチバレーを行った際には、ボールを下から投げることや捕ることについて学習をしている。しかし、ボール以外の物や複数の物を同時に投げたり捕ったりした経験は少ない。リング・キャッチの経験がある児童は1名だった。 【運動や遊びの経験と理解】

- 事前のアンケートより、本学級の児童(34名)は、88%(30名)が「ボールを投げるのが好き」と答えており、「上手くできる(11名)」「ボールを使うのが好き(7名)」「みんなとできる(4名)」「気持ちいい(3名)」等を理由に挙げている。「ボールを捕るのが好き」と答えた児童は85%(29名/34名)で、「捕れると嬉しい(8名)」「得意(4名)」「褒められる(3名)」等を理由に挙げており、これまでの成功体験や楽しい経験から好意的に捉えていることが分かる。 【楽しさ体験】

- 「ボールを投げるのが嫌い」と答えた児童は12%(4名)おり、その理由として、「怖い」「失敗したくない」「プレッシャーがかかる」「当たると痛い」を挙げている。また、「ボールを捕るのが嫌い」と答えた児童は15%(5名)おり、「怖い」「失敗したくない」「ぶつかる」と理由を挙げている。このことから、経験や技能レベル、用具への恐怖が関係していることが分かる。 【阻害要因】

- 試しの活動後にこの単元でどんなことをしたいか尋ねたところ、全員が「たくさん得点を取りたい」と答えた。また、「工夫して投げたい(27名)」「工夫して捕りたい(24名)」など、うまく投げたり捕ったりして、たくさん点数を取りたいと考えていることが分かった。 【児童の願い】

(3) 指導について

- ・ 楽しみながら、動きを高めることができるように、チャレンジ・ザ・ゲームの中の1つであるリング・キャッチを行う。リング・キャッチで記録を伸ばすためには、チーム内で言葉をかけ合い、息を合わせるチームワークが大切である。友達と共に目標を設定し、挑戦して楽しく競技をする中で、動きに関しても友達と試行錯誤しながら、高めていくことをねらいとしている。【単元設定の意図】
- ・ 試しの活動を行った後、「何が面白かった」と問うことで、運動の面白さを共有する。それに紐付いた探究テーマを決めることで、課題解決に向かうための方向性を共有する。【運動との出会わせ方】
- ・ 運動経験の少ない児童や技能習得が阻害要因となっている児童がたくさんリングを扱い、運動に慣れながら楽しめるように、1人1つ以上のリングを用意する。【知識及び運動の習得】
- ・ 何度も挑戦し、試行錯誤できるように、1チーム4～5人で行い、1人当たりの活動数を増やす。どのチームも活発な交流ができるように、チーム編成を普段の様子を基に教師が行う。【チーム編成】
- ・ チームの実態に応じて学習を進めるために、試技は1時間に3回までとし、活動中の練習の時間、2回の試技のタイミングを各チームに委ねる。ただし、緊張感をもって試技に臨めるように、3回目は全チームが一斉に行うようにする。【活動の工夫】
- ・ 準備にかかる時間を少なくし、「投げる」「捕る」という動きを高めることができるように、ニュートラルゾーンの幅を本学級の児童の平均身長 \times 2倍である265cmに設定する。また、活動範囲を制限することで安全に活動できるようにする。【場の設定】
- ・ 「怖い」や「当たると痛い」と感じている児童の阻害要因を除くために、周りが柔らかい素材で被われている公式のリングを使用する。また、「失敗したくない」や「プレッシャーがかかる」と感じている児童も達成感を味わうことができるように、教師が頑張りやできたこと、考えたこと、友達同士で言葉をかけ合っている姿を称賛し、挑戦しやすい雰囲気をつくる。【運動が苦手な児童への配慮】
- ・ 安全に活動するため、リング・相手・周りを見て活動するように言葉をかける。【安全面への配慮】
- ・ 動きと運動の視点よりリング・キャッチを整理した(表1)。これにより、児童が自己の課題を解決するための運動の視点が絞られ、教師が価値付けることが明確になり、児童をより探究的な学びに誘うことができる。できたことを称賛したり、できなかったことを励ましたりして、児童の考えを問いかけながら動きに応じた運動の視点を用いて価値付けていく。【思考力・判断力・表現力等の育成】

表1 動きと運動の視点による「リング・キャッチ」の整理

動き	投げる	捕る
時間性	速さ 時間 リズム タイミング 回数	速さ リズム タイミング 回数
空間性	場所 位置 距離 高さ 目線 姿勢	場所 位置 距離 高さ 目線 姿勢
力動性	力の大きさ(強弱) 動きの大きさ	力の大きさ(強弱) 動きの大きさ
共愉性	チームワーク 運動	

- ・ 児童が動きを通して運動同士の共通点や差異点を感じ、これまで学習してきた同じ動きや活用してきた運動の視点を生かして学習を進めることができるように、教師が問いかけながら動きの価値付けを行ったり、「キャッチバレー」の単元の掲示物を用いたりする。【思考力・判断力・表現力等の育成】
- ・ ポートフォリオシートにその日の活動を振り返り、次時にしたいことをめあてとして記すように促すことで、次時への見通しをもち、めあてをもった活動ができるようにする。また、児童が運動を「する」ことの楽しさを感じ、「たいいく」の約束に沿った学び方の定着を図るために、一生懸命活動する姿、一緒に仲良く活動する姿、工夫して安全に活動する姿を称賛する。【主体的に取り組む態度の育成】

(4) 期待する「回遊する学び」について

単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表2である。

他者の発想との回遊が生まれるように、ペアで行うリング・キャッチをチームで行う。チームの記録を伸ばすという目標に向かい、自分が順番を待つ間に友達の動きを分析して、自分の動きや友達の動きの改善につなげることができるようにする。また、試技を行う際には、2つのチームが協力して交互に行うようにする。お互いに審判をし合うだけでなく、試技後にアドバイスを送り合うことで、自分たちだけでは気付けなかった視点を取り入れながら活動できるようにする。

表2 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「同単元・領域」	体育科「体ほぐしの運動」 領域「体づくり運動」	・自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えようとしている。【思考力、判断力、表現力等】	・課題を解決するために、どんな工夫をしたらいかが友達に伝え、話し合っている。
ステージB 「同教科」	体育科「キャッチバレー」 領域「ゲーム」	・基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きができる。【知識及び技能】	・味方が捕りやすい位置に投げたり、全身を使って捕ったりしている。
	体育科 これまで学習した単元	・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】	・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。
ステージC 「他教科」	道徳科 「C 親切、思いやり」	・相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何かを考えて、進んで親切な行いをしようとする意欲を高める。【道徳的实践意欲】	・相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何かを考えて、温かい言葉かけをしている。
	算数科「折れ線グラフと表」 領域「データの活用」	・統計的な見方のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】	・記録を表やグラフにまとめ、そこから記録を伸ばすための工夫を考えている。
ステージD 「実生活・実社会」	国スポ 飛込ストレーションスポーツ チャレンジ・ザ・ゲーム	・SAGA2024 国スポ・全障スポへの興味・関心を高める。【学びに向かう力、人間性等】	・10月に佐賀県で行われる国スポ・全障スポへの興味・関心を高めている。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

ゲームを楽しく行う方法を知り、自分やチームの用具操作の動きを友達と協力して試行錯誤しながら、「投げる」「捕る」という動きの質を高めことができるようにする。

(2) 評価規準

ア リング・キャッチの行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わいながら、「投げる」「捕る」といった動きの質を高めることができるようにする。【知識・運動】

イ 自分やチームの課題に気付き、必要な動きを意識しながら活動を工夫したり考えたことを友達に伝えたりしている。【思考・判断・表現】

ウ 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とも仲良く運動をし、友達の考えを認め、場や用具の安全に気を付けて活動しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全4時間 本時3／4時間目）

時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	評価
1	○SAGA2024 国スポ・全障スポとの関連を知る。 ○単元や学習の見通しをもつ。 ○リング・キャッチをやってみる。 ○探究テーマを決定する。	・SAGA2024 で行われたことを知らせ、SAGA2024 への意欲を高める。 ・全員が楽しめるように、学習の約束や進め方を説明する。 ・どんなことをしていたかを問い、児童の言葉からリング・キャッチの面白さを共有する。 ・児童が感じた面白さに紐付けて、探究テーマを決定する。	◆リング・キャッチの面白さに触れ、その行い方を理解している。【知・運】 ◆場や用具の安全に気を配りながら、用具等の準備や片付けをしようとしている。【主】	B C D 他者
2	○チームで協力し、ゲームを楽しむ。 ○たくさん点数をとるために必要な自分やチームの課題について考える。	・児童が運動することの楽しさを感じ、学び方の定着を図るために、一生懸命、一緒に仲良く、工夫して活動している姿を称賛する。 ・動きが高まるように問いかけたり動きの工夫を称賛したりする。	◆チームの課題に気付き、友達に伝えている。【思・判・表】 ◆規則を守って取り組み、友達の考えを認め、誰とも仲良く活動しようとしている。【主】	A B C 他者
3 本時 4	○探究テーマに沿ったそれぞれの課題を解決しながら、点数を増やすことを目指す。 ○2チームで試技をする中で、称賛したり、アドバイスをしたりする。	・点数が増えたことや動きが高まったことを称賛し、そのための動きや運動の視点を価値付ける。 ・他のチームに応援・称賛・アドバイスをする姿を価値付ける。 ・課題を解決し、点数を増やすことができたか問い、探究テーマに迫ることができた児童を称賛する。	◆味方が捕りやすい位置に投げたり、全身を使って捕ったりしている。【知・運】 ◆自分やチームの課題に気付き、動きを意識しながら活動を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりしている。【思・判・表】	A B C D 他者

5 本時の指導 (3/4)

(1) 指導目標

時間内にリングをいくつとることができるかを楽しむ中で、これまで学習した動きとの関連に気付き、友達と協力して試行錯誤しながら、「投げる」「捕る」という動きの質を高めことができるようにする。

(2) 評価規準

イ 「投げる」「捕る」という動きの質を高めことができるように、課題解決に向け、これまで学習した動きとの関連に気付き、友達と協力して試行錯誤している。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時の様子を振り返り、チームの目標を確認して、チームで個人のためを共有する。(7分)</p> <p>・もっと記録を伸ばしたい。 ・投げるときにバラバラになってしまう。まとめて投げるにはどうしたらいいかな。 ・うまく捕れないなあ。キャッチバレーでは低い姿勢で捕ったけど、これではどうかな。 ・声をかけてタイミングをそろえるとよさそう。</p>	<p>1-(1) 前時までの活動で出た動きと運動の視点を整理し、キャッチバレーの掲示物を用いることで、その時の学びを想起しながら、課題解決の方法を具体的にイメージできるようにする。(B)</p> <p>1-(2) チームで本時の目標を確認し、個人のためを共有することで、自己の課題に応じたためをたてることができるようにするとともに、友達の様子を見るための視点を共有する。(A)</p>
<p>【探究テーマ】相手がとりやすいように投げて、どれだけとれるか。</p>	
<p>2 チームで活動する。(25分)</p> <p>《活動の約束》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで試技と練習の時間を決める ・試技は3回行ってよい(3回目は一斉に行う) ・試技をする時には、他チームと互いに見合う <p>【試技のルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4~5人で行う ・3個以上のリングを使う ・制限時間2分 ・線の外側から投げる ・リングに親指以外の4本の指を入れて投げる ・捕れた個数を足していき、合計を出す ・投げた人が次の人と交代する ・落としたものは、誰が拾ってもよい <p>・膝を使って投げると、安定して投げられた。 ・高すぎず、低すぎず、山なりに投げるといい。 ・正面に投げられると捕りやすいな。 ・横からリングに手を入れると捕りやすかった。 ・「せーの」のタイミングがあるとよさそう。 ・アドバイスを生かしてやってみよう。 ・友達の投げ方を真似してみよう。 ・もう1つリングを増やしてみてもいいかも。</p>	<p>2-(1) 自分たちの課題を意識して活動できるように、チームの課題を尋ねて確認する。</p> <p>2-(2) チームの実態や課題に応じた学び方ができるように、チームで試技と練習の時間を話し合っ決めてようにする。</p> <p>2-(3) よい動きを見付けたり、アドバイスをしたりできるように、試技をする際には他のチームと互いに見合うようにする。(他者)</p> <p>2-(4) 動きと運動の視点を意識して活動できるように、投げたり捕ったりしている児童に問いかけ、運動の視点を価値付ける。(B)</p> <p>2-(3) お互いに思いやり、誰もが楽しく活動できるように、温かい言葉を掛けて活動を盛り上げている児童を称賛する。(AC)</p> <p>◆ 課題解決に向け、これまで学習した動きとの関連に気付き、友達と協力して試行錯誤しているか。(観察・発言)【思・判・表】 B 友達にアドバイスをしたり、運動の視点をを使って称賛したりするなど、協力しながら何度も挑戦している。 C→ 何が課題なのかを確認し、解決に向けての動きや運動の視点を一緒に考える。</p>
<p>3 3回目の試技を全員で行う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番よい記録を出したいな。 ・手のひらで押さえてまとめて投げよう。 ・姿勢を低くしたら練習では上手くできたぞ。 ・みんなで声を出してタイミングを合わせよう。 	<p>3 全員で意欲を高めて挑戦できるように、3回目は全員で同時に行い、達成感を得られるように、緊張感のある中で頑張ったことを称賛する。</p>
<p>4 本時の振り返りを行う。(8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バラバラにならないようにまとめて相手の胸に投げたら、最高記録が出せて嬉しかった。 ・キャッチバレーと同じように、姿勢を低くして、体全体で捕るとたくさん捕れた。 ・タイミングを合わせてよい記録を出したい。 	<p>4-(1) 動きを意識しながら振り返りができるように振り返る視点を示し、2分間でたくさん捕るために考えたことを共有する。(B他者)</p> <p>4-(2) 児童が次時への意欲と展望をもつことができるように、本時の活動を称賛したり、意識した動きや運動の視点を価値付けたりする。</p>